

「令和2年度決算の概要」のポイント

1 人口・戸数の増加（資料1 P3、P7（2）業務量）

区分	令和元年度	令和2年度	増減
行政区域内人口	119,409人	119,502人	+93人
給水戸数	51,246戸	51,671戸	+425戸

1戸1月平均使用水量は、長期的な減少傾向の中、令和2年度は家事用が増え業務用は減りました。新型コロナウイルス感染症の影響と考えられます。

（資料2「平成18年度～令和2年度 業務量及び給水収益の推移」）

2 有収水量の増加（資料1 P3、P7（2）業務量）

有収水量	令和元年度	令和2年度	増減
水道	10,254,303 m ³	10,501,797 m ³	+247,494 m ³
下水道	11,352,763 m ³	11,643,988 m ³	+291,225 m ³

3 収益と純利益の増加（資料1 P1、P5）

収益	予算	決算	増減
給水収益（水道）	2,128,528千円	2,155,968千円	+27,440千円
下水道使用料	1,386,179千円	1,421,039千円	+34,860千円

純利益	予算	決算	増減
水道	212,132千円	318,032千円	+105,900千円
下水道	75,939千円	194,617千円	+118,678千円

4 資金残高の増加（資料1 P2、P6）

資金残高	令和元年度	令和2年度	増減
水道	1,288,708千円	1,328,152千円	+39,444千円
下水道	659,445千円	803,680千円	+144,235千円

令和2年度は人口・戸数とも増加し、有収水量（収益につながった水量）も増え、経費の節減に努めた結果、水道・下水道とも予算を上回る純利益を計上できました。

水道の資金残高については、今後減少し令和7年度からは5億円（日々の支払と災害時等の備えとして最低限必要な資金）を下回ると見込んでいるため、推移を注視していく必要があります。